

スーパーマーケット販売統計調査資料

2020 年 1 月実績 速報版(パネル 270)

2019 年 12 月実績 確報版(パネル 270)

2019 年 年間集計 確報版

(2020 年 2 月 21 日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚げ物、おにぎり、寿司、インスタペーパー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
	非食品			日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
	その他			テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2020年2月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2020年1月実績 速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
総売上高	87,595,330	100.0%	100.2%	98.6%
食品合計	79,126,607	90.3%	100.4%	98.9%
生鮮3部門合計	30,766,333	35.1%	100.0%	98.4%
青果	12,020,701	13.7%	98.6%	97.2%
水産	8,120,427	9.3%	101.0%	99.3%
畜産	10,625,206	12.1%	100.8%	99.2%
惣菜	9,264,542	10.6%	102.3%	100.8%
日配	16,922,610	19.3%	100.7%	98.9%
一般食品	22,173,122	25.3%	99.8%	98.6%
非食品	6,283,521	7.2%	97.2%	95.7%
その他	2,185,251	2.5%	97.3%	97.0%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
北海道・東北地方	11,880,651	43	100.2%	98.9%
関東地方	31,972,086	73	100.4%	98.7%
中部地方	10,749,354	53	99.9%	98.4%
近畿地方	19,720,781	44	99.4%	98.2%
中国・四国地方	8,544,158	34	101.2%	99.4%
九州・沖縄地方	4,728,301	23	100.8%	98.5%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
1～3店舗	596,724	45	94.3%	96.0%
4～10店舗	4,067,663	79	96.9%	97.9%
11～25店舗	9,793,993	59	100.4%	99.1%
26～50店舗	14,723,172	43	101.0%	98.5%
51店舗以上	58,413,778	44	100.3%	98.6%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	84,819,373
総店舗数（店舗）	8,019	店舗平均月商（万円）	10,923
総売場面積（㎡）	13,320,170	売場1㎡あたり売上高（万円）	6.6

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2020年2月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2019年12月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	105,254,923	100.0%	100.4%	99.1%
食品合計	95,339,174	90.6%	100.9%	99.6%
生鮮3部門合計	37,014,691	35.2%	101.4%	100.1%
青果	14,021,987	13.3%	102.2%	101.1%
水産	10,534,394	10.0%	101.0%	99.4%
畜産	12,458,309	11.8%	101.0%	99.4%
惣菜	10,908,561	10.4%	102.4%	101.1%
日配	19,896,787	18.9%	101.2%	99.6%
一般食品	27,519,136	26.1%	99.3%	98.6%
非食品	7,043,691	6.7%	96.3%	94.9%
その他	2,872,105	2.7%	96.3%	96.0%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	15,445,493	43	100.2%	98.9%
関東地方	39,149,054	73	100.8%	99.8%
中部地方	13,145,799	53	100.3%	99.1%
近畿地方	21,093,556	44	99.7%	98.5%
中国・四国地方	10,533,395	34	100.4%	99.1%
九州・沖縄地方	5,887,625	23	100.6%	97.9%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1～3店舗	761,303	45	94.3%	95.8%
4～10店舗	5,114,480	79	97.3%	98.7%
11～25店舗	12,106,780	59	101.0%	99.7%
26～50店舗	18,873,780	43	100.1%	98.7%
51店舗以上	68,398,580	44	100.7%	99.2%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)		102,047,228
総店舗数 (店舗)	8,023	店舗平均月商 (万円)		13,119
総売場面積 (㎡)	13,320,236	売場1㎡あたり売上高 (万円)		7.9

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2020年2月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2019年 年間実績（パネル270） 確報版

	全店売上高（万円）	構成比	前年比 （全店）	前年比 （既存店）
総売上高	1,078,509,015	100.0%	99.9%	98.8%
食品合計	965,887,488	89.6%	100.1%	98.9%
生鮮 3 部門合計	366,237,301	34.0%	99.5%	98.2%
青果	147,415,673	13.7%	98.0%	97.0%
水産	94,539,122	8.8%	100.6%	99.2%
畜産	124,282,506	11.5%	100.4%	99.0%
惣菜	110,595,576	10.3%	101.7%	100.3%
日配	209,734,944	19.4%	100.2%	98.8%
一般食品	279,319,666	25.9%	100.2%	99.3%
非食品	77,387,001	7.2%	98.5%	97.8%
その他	35,234,526	3.3%	99.3%	98.3%

エリア別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年比 （全店）	前年比 （既存店）
北海道・東北地方	149,458,167	43	99.8%	98.7%
関東地方	399,500,538	73	100.3%	99.1%
中部地方	133,021,154	53	100.2%	98.9%
近畿地方	230,479,609	44	99.4%	98.3%
中国・四国地方	107,334,519	34	99.3%	98.3%
九州・沖縄地方	58,715,029	23	99.7%	98.6%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年比 （全店）	前年比 （既存店）
1～3店舗	7,567,693	45	94.3%	94.6%
4～10店舗	46,694,243	73	98.1%	98.0%
11～25店舗	118,176,054	63	98.5%	98.4%
26～50店舗	195,227,489	45	99.8%	98.7%
51店舗以上	710,843,535	44	100.3%	98.9%

※保有店舗数カテゴリーは2019年1月時点での保有店舗数による分類

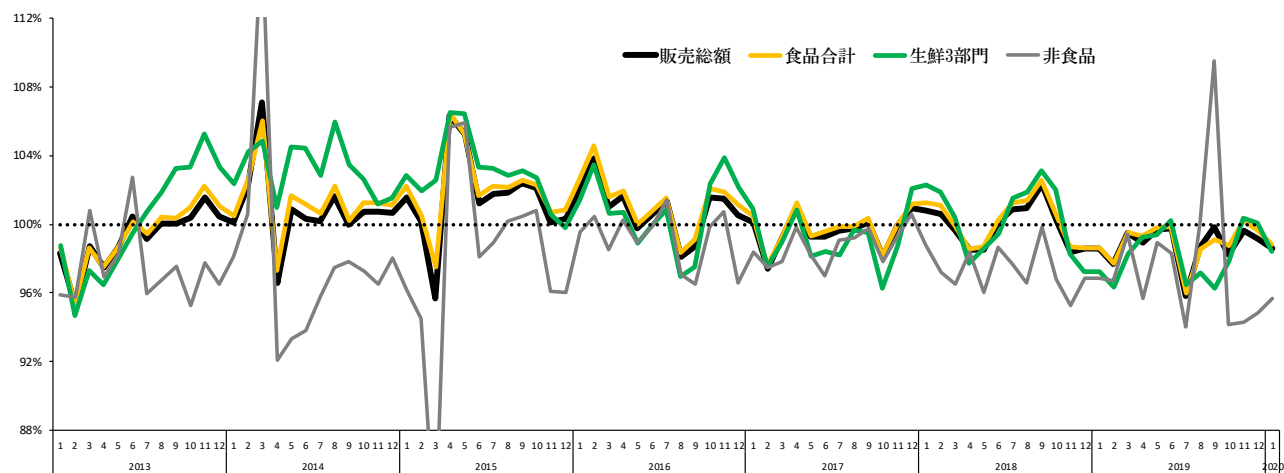
集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	1,046,063,821
----------	-----	-------------	---------------

※売上高は税抜金額

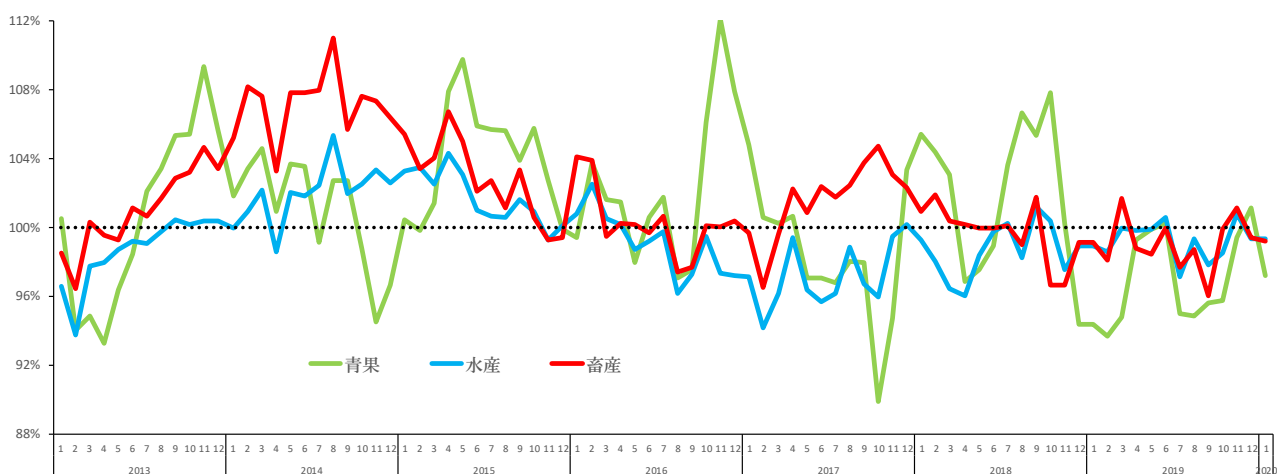
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2013年1月～

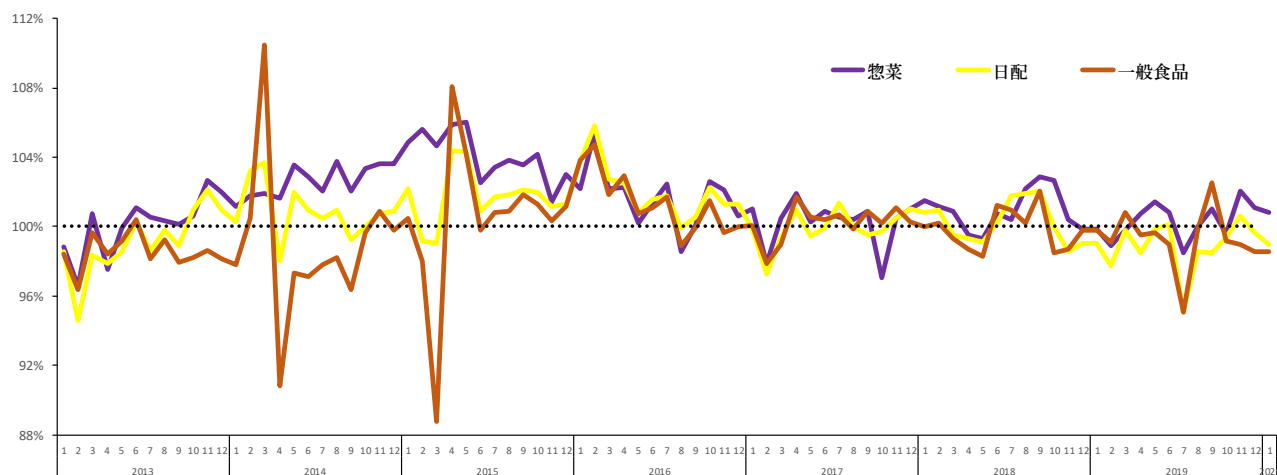
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2020年1月実績は速報値

2020年1月エリア別気候状況

気温の特徴：東・西日本では記録的な高温となった

上旬：東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美では高かった。

中旬：東日本でかなり高く、北・西日本と沖縄・奄美では高かった。

下旬：全国でかなり高かった。

2019年1月との比較：上旬と下旬かなり気温が高くなった

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2020年1月			2019年1月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本 日本海側	0.5	1.6	2.8	0.3	0.4	1.0	0.2	1.2	1.8
太平洋側	0.7	1.4	2.8	0.0	0.6	0.7	0.7	0.8	2.1
東日本 日本海側	2.2	2.5	4.0	-0.2	1.3	0.6	2.4	1.2	3.4
太平洋側	2.1	2.1	3.7	-0.1	1.2	0.6	2.2	0.9	3.1
西日本 日本海側	2.9	1.6	4.4	0.2	1.8	1.7	2.7	-0.2	2.7
太平洋側	2.3	1.3	4.2	0.3	1.5	1.2	2.0	-0.2	3.0
沖縄・奄美	1.4	0.9	2.2	1.6	1.6	0.4	-0.2	-0.7	1.8

平年差

+2℃以上		-2℃以上	
+1℃以上		-1℃以上	

前年差

+2℃以上		-2℃以上	
+1℃以上		-1℃以上	

日照時間の特徴：沖縄・奄美、北日本日本海側で多く、一方、東日本太平洋側でかなり少なかった。

上旬：西日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり多く、北日本太平洋側と西日本日本海側では多かった。

中旬：北日本日本海側で多かった。一方、北・東日本太平洋側と西日本では少なかった。

下旬：沖縄・奄美でかなり多く、北日本日本海側では多かった。一方、東日本太平洋側と西日本はかなり少なく、北日本太平洋側では少なかった。

2019年1月との比較：下旬にかけて西日本ではかなり少ない日照時間となった

	日照時間 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2020年1月			2019年1月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本 日本海側	113	133	117	65	121	86	48	12	31
太平洋側	112	91	93	123	112	93	-11	-21	0
東日本 日本海側	107	94	104	101	114	100	6	-20	4
太平洋側	103	89	64	116	111	108	-13	-22	-44
西日本 日本海側	122	83	61	108	120	139	14	-37	-78
太平洋側	132	84	64	100	104	127	32	-20	-63
沖縄・奄美	195	85	157	41	80	171	154	5	-14

平年差

平年比150％以上		平年比50％以下	
平年比125％～149％		平年比51％～75％	

前年差

+50％以上		-50％以下	
+25～49％		-25～-49％	

降水量の特徴：日本海側を中心に降雪量は記録的に少なかった

上旬：北日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少なかった。

中旬：北・西日本日本海側でかなり少なく、北・西日本太平洋側と沖縄・奄美では少なかった。

下旬：北日本太平洋側と西日本でかなり多く、東日本太平洋側では多かった。一方、北日本日本海側と沖縄・奄美では少なかった。

2019年1月との比較：上旬と下旬は太平洋側を中心にかなり降水量が多くなった

	降水量 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2020年1月			2019年1月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本 日本海側	51	55	86	72	77	103	-21	-22	-17
太平洋側	94	44	258	17	30	80	77	14	178
東日本 日本海側	106	86	86	76	77	98	30	9	-12
太平洋側	113	66	285	5	12	65	108	54	220
西日本 日本海側	109	34	325	21	48	104	88	-14	221
太平洋側	102	40	352	5	42	77	97	-2	275
沖縄・奄美	6	54	67	147	118	10	-141	-64	57

平年差

平年比150％以上		平年比50％以下	
平年比125％～149％		平年比51％～75％	

前年差

+50％以上		-50％以下	
+25～49％		-25～-49％	

スーパーマーケット景気動向調査

2020 年 2 月調査結果（1 月実績）
（2020 年 2 月 21 日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

2月調査（1月実績）結果概況

景気判断 DI 現状判断、見通し判断は共に小幅に悪化

1月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断 DI 現状判断は、前月から-2.2の42.5、見通し判断は前月から-1.9の39.5となり、共に小幅な悪化となった。

経営動向調査では、売上高 DI、収益 DI 共にややマイナス幅を拡大した。青果相場安により生鮮仕入原価 DI が-4.2とマイナスに落ち込み、客単価 DI が-3.5と低迷したことが影響している。

カテゴリー動向調査では、前年より高い気温の影響により、冬物商材が不振となっており大きな影響を受けた。なかでも青果相場安の影響も加わった青果 DI は-13.9と二桁のマイナスとなった。非食品カテゴリーは、新型コロナウイルス対策として衛生用品に品薄が発生するなど、マイナス幅を縮小している。惣菜 DI は天候の恩恵も受け唯一プラスとなった。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査はいずれの DI も悪化をみせており、なかでも2か月連続で改善していた現状判断の悪化幅が大きくなった。また見通し判断では弱含み傾向が継続しており、中核店舗景気判断 DI では30台まで悪化している。（長期傾向についてはp11参照）

消費税率引き上げの影響もあり、節約志向の高まりを指摘するコメントが多くみられた。新型コロナウイルスの影響も拡大しており、消費者マインドの冷え込みは長期化する可能性が高い。テレワークの拡大や外出の自粛など、家で過ごす時間が増加することも予想される。今後の家庭内消費や内食需要の高まりへの対応に向け、豊かな食卓の演出をサポートするような取り組みが求められる。

景況感調査

現状判断

景気判断DI

当月：42.5 (-2.2)
前月：44.7

消費者購買意欲DI

当月：41.9 (-2.6)
前月：44.5

周辺地域 競合状況DI

当月：40.0 (-0.6)
前月：40.6

店舗周辺地域 景気判断DI

当月：43.7 (-0.6)
前月：44.3

見通し判断

景気判断DI

当月：39.5 (-1.9)
前月：41.4

消費者購買意欲DI

当月：40.5 (-0.6)
前月：41.1

周辺地域 競合状況DI

当月：39.7 (-0.3)
前月：40.0

店舗周辺地域 景気判断DI

当月：42.6 (-0.7)
前月：43.3

経営動向調査 経営状況

売上高DI

当月：-8.8 (-2.4)
前月：-6.4

客単価DI

当月：-3.5 (-0.8)
前月：-2.7

来客数DI

当月：-9.8 (-2.4)
前月：-7.4

収益DI

当月：-6.0 (-2.6)
前月：-3.4

販売価格DI

当月：-0.2 (-0.9)
前月：0.7

生鮮品仕入原価DI

当月：-4.2 (-7.3)
前月：3.1

食品仕入原価DI

当月：0.5 (-1.7)
前月：2.2

カテゴリー動向

青果DI

当月：-13.9 (-14.2)
前月：0.3

水産DI

当月：-3.1 (-0.4)
前月：-2.7

畜産DI

当月：-5.9 (-2.6)
前月：-3.3

惣菜DI

当月：1.8 (-0.8)
前月：2.6

日配DI

当月：-7.1 (-3.8)
前月：-3.3

一般食品DI

当月：-10.4 (+0.3)
前月：-10.7

非食品DI

当月：-6.4 (+6.2)
前月：-12.6

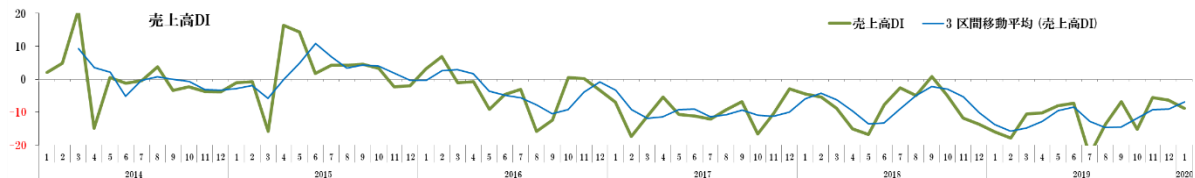
※DI 値は前年同月との比較／○内は前月 DI からの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

小幅ながらマイナス幅が拡大し、上昇基調一服

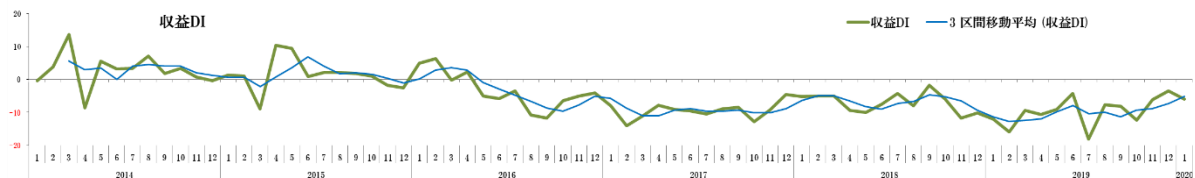
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	9.1	34.2	33.2	20.3	3.2	-6.4
売上高 (当月)	13.2	34.6	28.9	20.8	2.5	-8.8



2. 収益DI

マイナス幅が拡大し、上昇基調一服

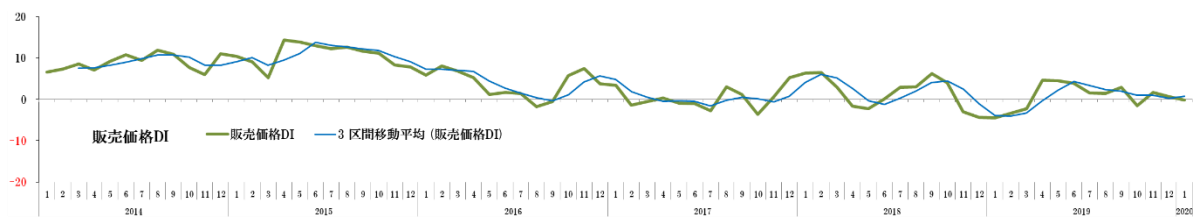
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	6.6	29.5	38.3	22.4	3.3	-3.4
収益 (当月)	8.4	32.9	34.8	21.9	1.9	-6.0



3. 販売価格DI

緩やかな下降トレンドが続く

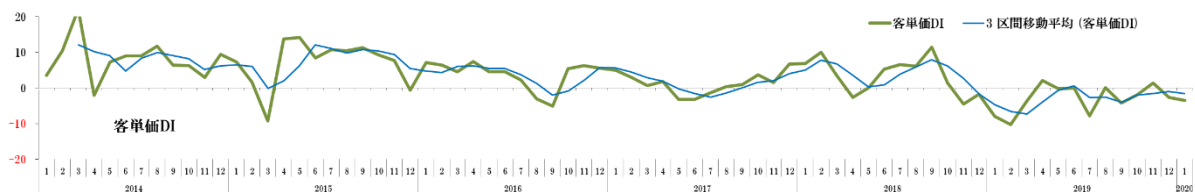
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	1.6	13.4	66.3	18.2	0.5	0.7
販売価格 (当月)	0.6	15.4	68.6	14.7	0.6	-0.2



4. 客単価DI

2か月連続で小幅なマイナス水準で推移

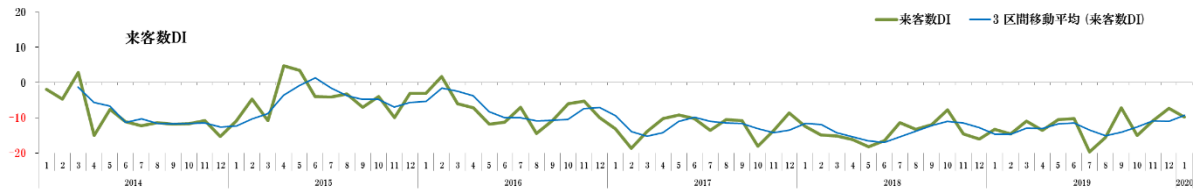
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	2.7	29.4	43.9	24.1	0.0	-2.7
客単価 (当月)	2.6	32.1	42.3	23.1	0.0	-3.5



5. 来客数 DI

マイナス水準での低迷が続く

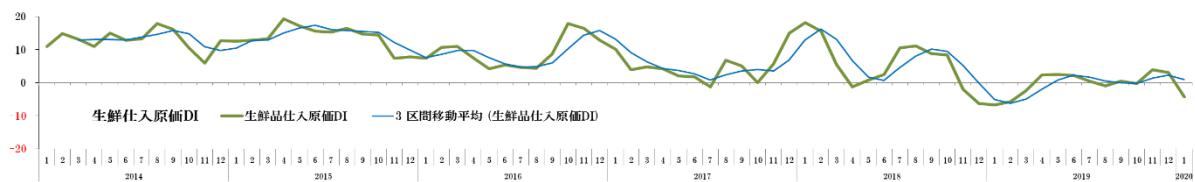
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	9.1	37.4	29.9	20.9	2.7	-7.4
来客数 (当月)	12.2	35.3	34.6	15.4	2.6	-9.8



6. 生鮮仕入原価 DI

大きく下落しマイナス水準へ

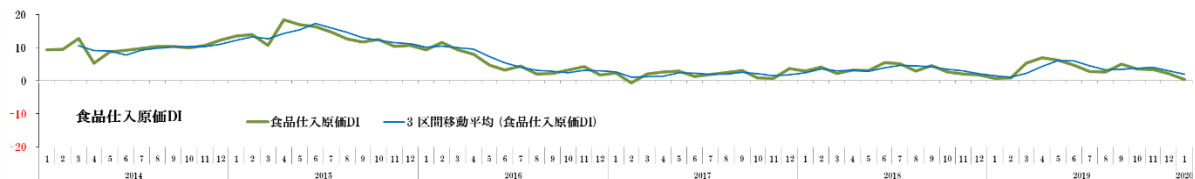
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.1	13.9	56.7	28.3	0.0	3.1
生鮮仕入原価 (当月)	3.2	26.0	55.2	15.6	0.0	-4.2



7. 食品仕入原価 DI

プラス圏で底堅い推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.8	9.9	63.5	23.2	0.6	2.2
食品仕入原価 (当月)	3.8	10.3	66.0	19.9	0.0	0.5

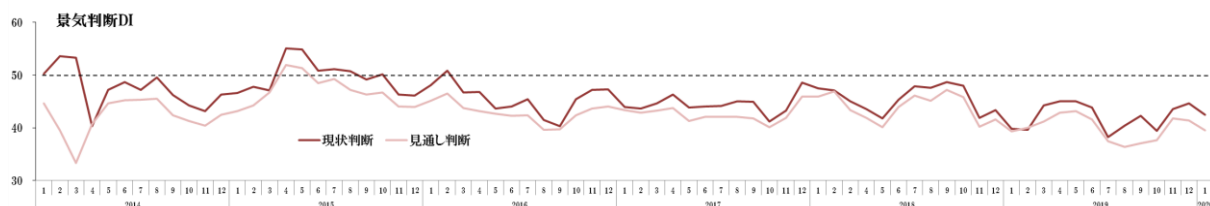


Ⅱ．景況感調査（2014 年 4 月～／周辺地域景気判断 2010 年 4 月～）

1. 中核店舗景気判断 DI

現状、見通し判断共に悪化 見通し判断は再び 30 台に

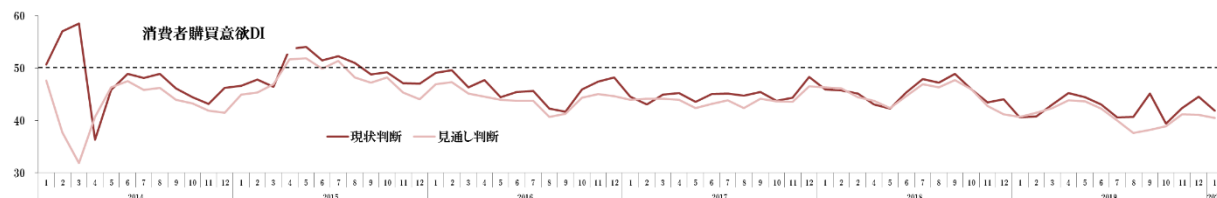
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	3.2	26.7	58.8	10.7	0.5	44.7
【現状】景気判断（当月）	3.8	30.0	58.8	7.5	0.0	42.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	2.7	33.7	58.8	4.8	0.0	41.4
【見通し】景気判断（当月）	4.4	36.9	55.0	3.8	0.0	39.5



2. 消費者購買意欲 DI

現状、見通し判断共に悪化 現状判断の悪化幅が大きい

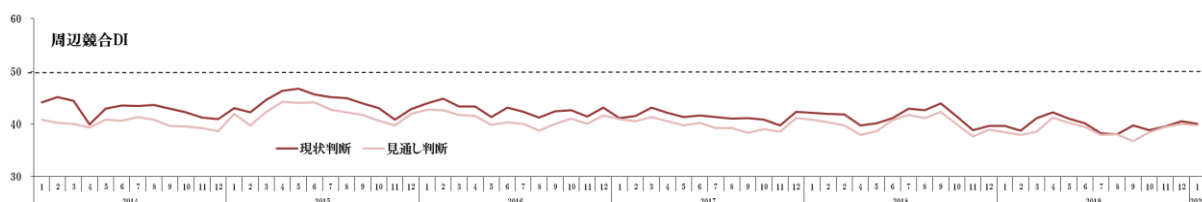
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	1.6	28.2	61.2	8.5	0.5	44.5
【現状】購買意欲（当月）	1.9	33.8	59.4	5.0	0.0	41.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	2.1	34.6	60.1	3.2	0.0	41.1
【見通し】購買意欲（当月）	1.9	37.5	57.5	3.1	0.0	40.5



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通し判断共に小幅な悪化

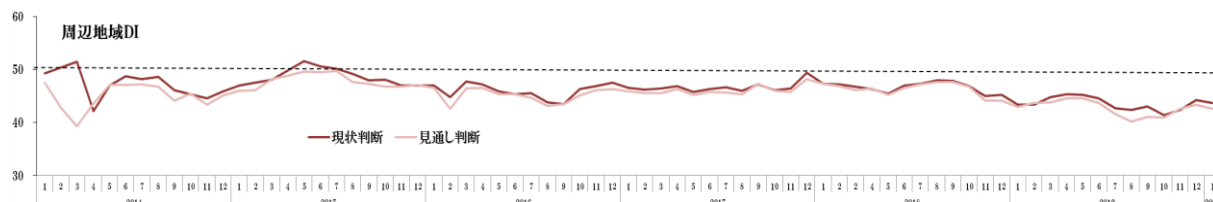
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	6.4	26.6	65.4	1.6	0.0	40.6
【現状】競合状況（当月）	7.5	27.5	62.5	2.5	0.0	40.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	7.4	26.6	64.4	1.6	0.0	40.0
【見通し】競合状況（当月）	8.8	26.3	62.5	2.5	0.0	39.7



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

現状、見通し判断共に小幅な悪化

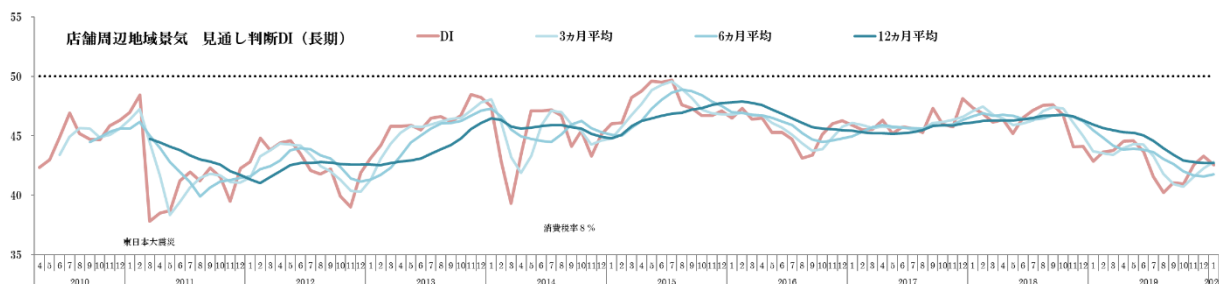
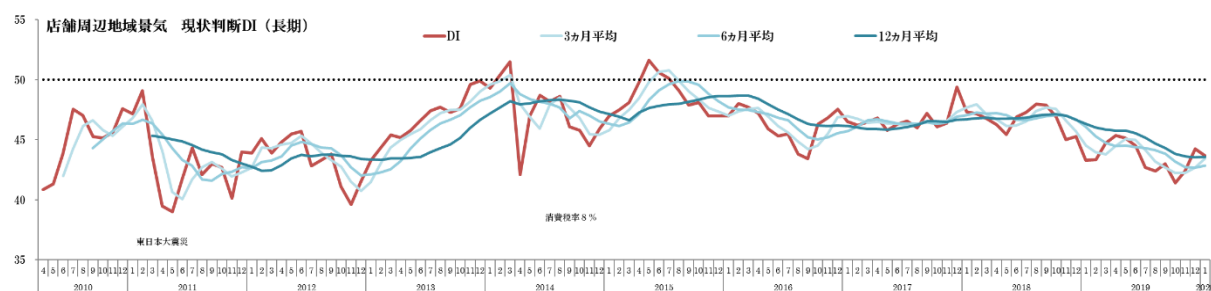
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.5	22.5	76.5	0.5	0.0	44.3
【現状】地域景気 (当月)	1.3	24.1	73.4	1.3	0.0	43.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.5	26.9	71.5	1.1	0.0	43.3
【見通し】地域景気 (当月)	2.5	25.9	70.3	1.3	0.0	42.6



・中核店舗周辺地域景気判断 DI 長期傾向 (2010 年 4 月～)

周辺地域景気判断 DI は、2011 年 3 月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12 年 11 月から 16 ヶ月にわたる改善が続き、14 年 3 月には現状判断 DI が 51.5 を記録した。14 年 4 月の消費税率 8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015 年 5 月には現状判断 DI は 51.6 にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

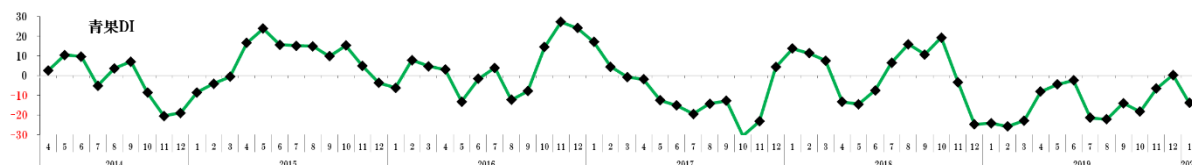
しかしこれをピークに、その後 15 ヶ月間にわたり悪化傾向が続き 16 年 9 月には、現状判断 DI は 43.4 まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18 年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げ、19 年 10 月には現状判断 DI は 40.9 まで低下した。その後やや持ち直したものの、2020 年 1 月にやや一服した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-13.9（不調）

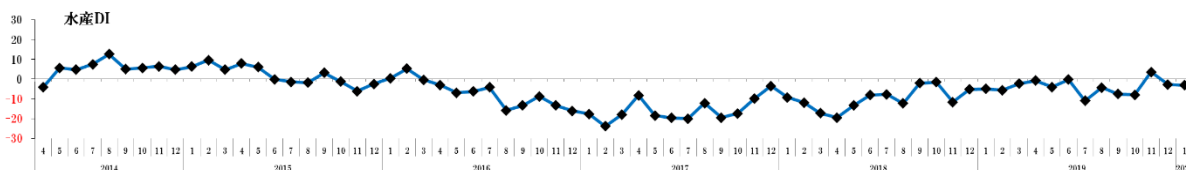
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	6.8	24.9	32.8	31.6	4.0	0.3
青果（当月）	11.9	45.0	31.1	10.6	1.3	-13.9



全般的に青果相場が前年より1割程度安く推移しており、販売点数増加がみられたものの、単価の落ち込みをカバーするには至らなかった。特に大幅な相場安となったジャガイモや玉ねぎなどが不振となった。暖冬となった前年と比べてもさらに気温が高く、菌類を中心として鍋物関連野菜の動きが悪かった。サラダ関連の洋菜類は動きがよかった。国産果物類で相場高や品質によりイチゴやみかんが不調となり大きく売上を落とした。一方輸入果物のバナナやキウイフルーツなどは好調となった。

2. 水産DI：-3.1（やや不調）

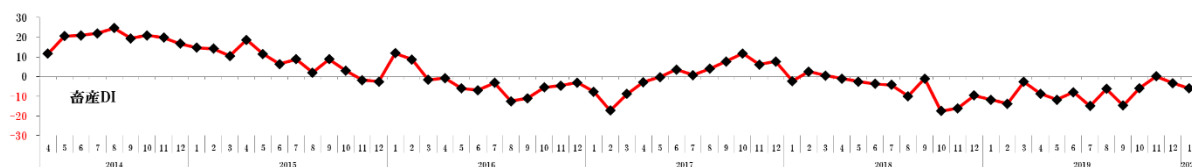
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	7.5	28.2	36.8	23.0	4.6	-2.7
水産（当月）	7.9	27.6	37.5	23.0	3.9	-3.1



前年より高い気温となった地域では鍋物用食材（牡蠣、タラなど）の不振が続いた。刺身類は年始商戦では好調に推移したものの、正月以降は伸び悩んだ店舗が多い。ブリや鮭などは好不調が分かれた。タコや海藻類が好調とのコメントが多かった。サラダ用や簡便商品の取扱い強化の動きもみられた。

3. 畜産DI：-5.9（やや不調）

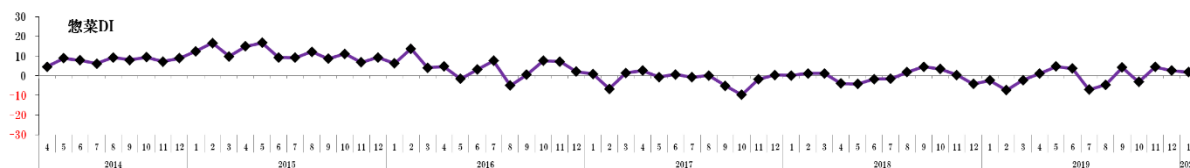
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	8.0	25.9	40.2	23.0	2.9	-3.3
畜産（当月）	8.6	30.9	38.8	19.1	2.6	-5.9



前年より気温が高い地域が多く、鍋物用や煮込み用の豚肉や鶏肉を中心に動きが悪かった。牛肉は焼肉用などが好調だが、平日は輸入牛、週末は和牛などブランド牛の動きがよかった。国産豚は不振となったが、輸入豚の価格訴求により販売数量を伸ばした店舗もみられた。鶏肉も気候条件により伸び悩んだが、焼き物用の銘柄鶏を訴求して成果を上げた店舗もみられた。ハムやソーセージなどの加工肉は好不調がわかれた。

4. 惣菜DI：1.8（やや好調）

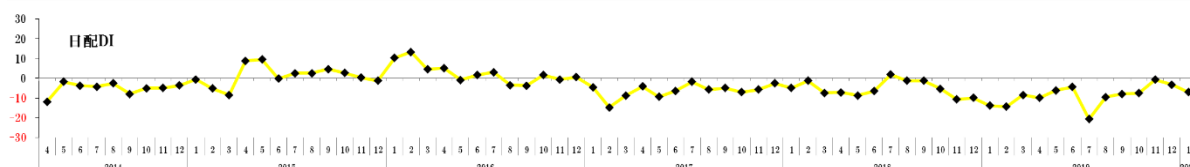
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	5.2	21.4	37.0	30.6	5.8	2.6
惣菜（当月）	5.3	23.7	34.9	30.9	5.3	1.8



雨や雪が少ないなど天候に恵まれたため、揚げ物や米飯類が好調に推移した。出来立ての提供や旬の食材を使った季節感のある商品の動きがよい一方で、商品のマンネリ化で伸び悩みを指摘するコメントもみられた。青果カテゴリー同様にサラダや和え物が好調となった。ロス率管理の強化により、チャンスロスの発生を指摘するコメントがみられた。

5. 日配DI：-7.1（やや不調）

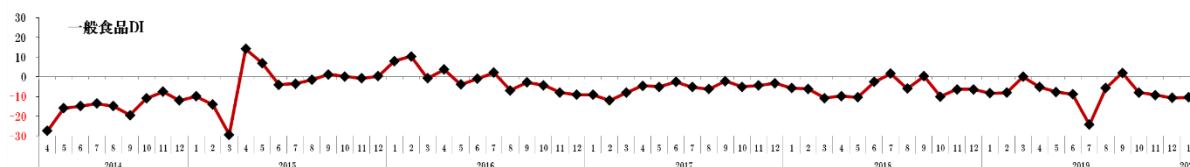
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	6.9	27.6	40.2	22.4	2.9	-3.3
日配（当月）	9.2	31.6	39.5	17.8	2.0	-7.1



前年より高い気温により、鍋・おでん商材関連の和日配や麺類などのホットメニューの動きが悪かった。前年健康報道により特需のあった納豆、甘酒、梅干しには反動減もみられ、和日配カテゴリーが特に不振となった。洋日配では、機能性ヨーグルトは前年並みだが、飲料やチーズ、入荷が安定したバター類などが好調となった。パン類は好調に推移した店舗が多い。TV報道のあった豆乳類には特需もみられた。

6. 一般食品：-10.4（不調）

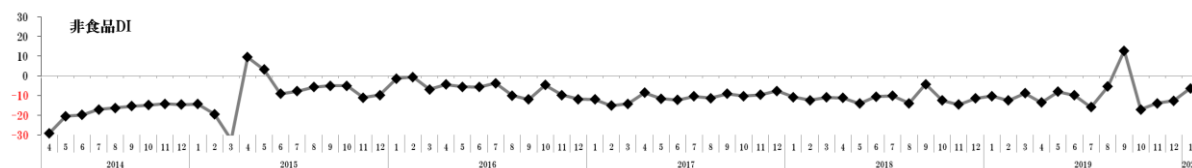
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	9.1	41.1	34.9	13.1	1.7	-10.7
一般食品（当月）	11.0	34.4	41.6	11.0	1.9	-10.4



高い気温で推移した地域では、鍋用調味料やシチューなどホット商材、コーヒー類は総じて不振となった。一方で飲料類は比較的堅調に推移した。野菜相場安の影響か、ドレッシングやマヨネーズが好調となった店舗もみられた。前年報道によりサバ缶をはじめとする水産缶詰類や、えごま・エマニ油に反動減がみられた。米類はやや好調となっている店舗が多い。酒類は消費税率引き上げ後の反動減が続いている。ドラッグストアやディスカウントストアとの価格競争を厳しさへの指摘が目立った。

7. 非食品 DI：-6.4（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	16.4	32.2	38.0	12.3	1.2	-12.6
非食品（当月）	9.4	35.6	30.9	19.5	4.7	-6.4



1 月下旬からインフルエンザ、コロナウイルス対策として、マスクや石鹸、除菌シートなど衛生用品が売り切れとなるなど品薄状態が続いている。カイロや入浴剤などの季節商材は、高い気温により不振となった。ホームセンターやドラッグストアなどの競合が厳しく低迷が続いている。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20 ～

2020 年 2 月調査（1 月実績）キーワード TOP3

1. 冬物商材不振（前年より高い気温）
2. 青果相場安
3. 節約志向

（参考）2019 年 2 月調査（1 月実績）キーワード TOP3

1. 青果相場安（前年高騰）
2. 冬物商材不振（前年より高い気温）
3. 降雪予報による買いだめ需要からの反動

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

1 月実績速報版 187 社
 12 月実績確報版 160 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp